主催:佐々町地域包括支援センター　2023 年 11 月 21 日発行　第 14 号

「第 14 回男性介護者ケアの集い」ニュース

令和５年 10 月 19 日（火）「第 14 回男性介護者ケアの集い」を開催しました。
今回、「男性介護者ケアの集い」の会長と副会長が決まりました。
初代会長に吉田正昭さん（80 歳）初代副会長に徳久正喜さん（67 歳）。会長と副会長は、「梅松カフェ」も兼任を承諾してもらいました。２ つの会がより発展していけるように今後の取り組みについて、話し合いました。

参加者の近況報告

・Ｆさん（77 歳）妻が、５月に入院し、３か月の入院予定だったが、一時体調を崩し、別人のように弱っていた。少しずつ表情も良くなり、会話も増えた。今日午後から面会に行く予定。元気になって以前のようになってほしい。
Ｆ さんは、妹の家に稲刈りやはざ掛けの手伝いに行った。藁掛け作業が大変で腰や膝にきて、痛みがある。糖尿病で HbA1c が高くなり、医師より酒をやめるべきといわれ禁酒した。酒が飲めなければ人生の楽しみがなくなると感じていたが、現在は、すっぱりやめている。糖尿病の検査結果が良くなり、体調も良い。
・Ｄさん（67 歳）妻への介護の負担が増え、デイサービスを週２回から１回にショートステイを週１回から２回に変更してもらった。ショートステイを増やし、**自分の休息**がとれている。妻は、歩行能力が落ち、一人で外に出なくなり、２階の階段の上り下りが不安である。内服は、薬の苦みなどで拒否することもあるが、１日１回であるため時間帯を変えてすすめるなど**工夫している**。症状の進行により、記憶の低下に加え、その時々で言っていることがコロコロ変わっている気がする。薬の量がふえると内服も難しくなると思う。靴を脱がず家の中に入ることもある。指摘したり怒ったりすると、逆に興奮するため、**様子を見ながら**靴を脱いでもらうように**心がけている**。しかし、　妻が急に怒り出して口喧嘩になることも月に２回ほどある。お互いに口喧嘩をすることで**感情の発散**ができていると感じる。物を投げたり、暴力をふるうことはない。危険物（包丁など）は、隠している。出したものを片付けずにいるため、部屋が散らかっている。
【参加者からの助言】安全のために、通路や床だけには物を置かないようにした方がいい。転倒の原因になり、骨折や打撲で動きが悪くなり、寝たきりになる場合もあるため、**片付けは大切だ**と思う。
・Ｃさん（８０歳）妻はグループホームに入り２年経過。面会に行っても、自分が夫と気づかず息子と間違えて「孫が見たい」といったり、「自分の夫は、亡くなった」というので、がっくりする。妻は、認知症がひどくなった時に、何でも捨ててしまっていた。ストーブやカーペットも倉庫に入れていたが、妻が以前捨てたようで倉庫にはない。愛犬が６月に亡くなり寂しいので、また動物を飼おうと思って店に行ったが、年齢制限があり断られた。

集いの様子

吉田正昭会長紹介

水道町内会在住の吉田会長は、妻（80 代）の介護拒否や被害妄想に悩み、包括支援センターに相談。妻は現在、施設に入所し、定期的に面会に行かれています。この会の重要性を理解され、第 1 回から休むことなく参加されています。毎回、この会の内容を録画し、家で聞き直すほどの真面目で熱心な方です。
とても 80 歳とは思えない容姿で、ユニークなスピーチと涙もろいところが人を引き付ける魅力の一つです。また、オーディオマニアで自宅にカラオケルームを作る程の凝り性。「歌が好きな人、大歓迎」との事。

吉田会長の一言「いつまでできるかわからないが一生懸命に頑張りたい。認知症への理解をもっと多くの人に伝えていきたい。梅松カフェにも気軽に参加してほしい。カラオケをいつでも用意しています。」

徳久正喜副会長紹介

芳ノ浦町内会在住の徳久副会長は、認知症の母（90 代）を在宅で 16 年間介護をされました。会の中でも介護経験や知識が豊富で物腰の柔らかさと説得力のあるスピーチで、とても勉強になります。建築関係の仕事をしながら、仕事以外に健康保持に効果的な姿勢・姿斉教室を行っています。超多忙の中でも時間を調整してこの会に参加。会長の人柄にほれ込んで副会長を承諾されました。

徳久副会長の一言「動物社会では、60 歳を過ぎたら男は役立たずといわれているが、人間社会では役割を持つことで感じられる喜びがある。会長のサポートを精いっぱいやりたい。」

次回の集いのお知らせ

梅松カフェ
日時：12 月 7 日（木）13 時から 15 時　場所：福祉センター2 階

男性介護者ケアの集い
日時：12 月 21 日（木）10 時から 12 時　場所：健康相談センター

編 集 後 記

会長と副会長が決まり、本当にうれしく思います。また、梅松カフェでもカラオケ担当や姿斉教室担当をされ、多くの住民が楽しんで参加できる通いの場を盛り上げていらっしゃいます。お二人ともとても熱心で頼もしい限りです。今後も介護で困っている人への呼びかけをより積極的に行い、認知症への理解を深めていきたいと思います。

問い合わせ先：佐々町地域包括支援センター　電話 62-6122　　久保か大浦まで